

# 美濃焼のふるさと

可児市の宝物  
シートNo.1 [小学生用]

## 2つの国宝を生んだ「美濃桃山陶の聖地」

昔、景豊という人が、久々利の大平で茶わんをやくのに良いねん土を発見しました。

景豊は信長のとの様の許しをうけ、大平に茶わんをやく窯をつくりました。

その後、景豊の子どもの景成も、少しはなれた久々利の大がやで、とうきを焼きはじめました。

そこではとてもすばらしい茶わんができましたが、焼きはじめてから50年もたないうちにやめてしまいました。そして、それから長い間忘れられていました。



## 志野焼の発見

それから300年以上がたった昭和のはじめころ、荒川豊蔵という人がいました。豊蔵さんは、名古屋でたけのこの絵があるすばらしい志野焼を見ました。

そして、この絵と同じ志野焼のはへんを久々利の大がやで見つけました。これは大発見でした。長い間忘れられていた志野焼は、可児市で焼かれていたことが証明されたのです。

## 人間国宝のたん生

豊蔵さんは同じ焼物を作ってみようと思い、この場所へ移り住み、茶わんを焼きはじめました。

そして、ついにすばらしい志野焼などを作ることに成功し、昭和30年に**人間国宝**となりました。



あらかわとよぞう  
荒川豊蔵

たけのこの絵のはへんを見つけたぞ！



豊蔵さんのかいた絵



見つけた志野焼のはへん

## 国宝の志野茶わん

豊蔵<sup>とよぞう</sup>さんがかけらを見つけた久々利の다가やは、何と国宝になっている志野茶わんがやかれた場所でもありました。

ここからは、国宝の茶わんとよく似た絵のはへんが見つかっています。



むかし、志野茶わんが焼かれた所



「国宝の茶わん」とよく似た絵のはへん

## 歴史館にある美濃焼の名品



昔はせと市などで焼かれたと考えられていました。

400年も前に焼かれて、伝わっているものだよ。

### 瀬戸黒 (せとぐろ)

焼いている途中で外へ引き出し、急に冷やすことで黒くした焼物です。



長江学芸員

### 黄瀬戸 (きせと)

黄色く焼かれたものです。草や花を線でかき、茶色や緑色を一部につけてかざっています。



### 志野 (しの)

筆<sup>ふで</sup>で絵をかき、その上に白い透明<sup>とうめい</sup>の薬をかけて焼いたものです。



### 織部 (おりべ)

土岐市ではじめて焼かれたといわれます。緑色や赤色や茶色などの色をつけて焼かれています。

